

キャラクター名
ジル・ブランシェ

— プレイヤー名 —

シンドローム	プラム=ストーカー	ワークス	ビジネスマン	カヴァー	喫茶店マスター
	ハヌマーン				
オプショナル		年齢	44(外見)+20歳	性別	男
覚醒	渴望	衝動	妄想	初期侵食率	31
出自	父親不在	経験	結婚	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	0	0			2	行動値	9
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	9
精神	2	1	0			3	戦闘移動	14
社会	1	0	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			R C	2		交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：	2		芸術：			知識：レネゲイド	1		情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タク	消
吸血鬼 "ヴァンパイア" P		N		
エミリー	P 懐旧	N 悔悟		
事件の犯人	P 執着	N 殺意		
リリス・クルシェドラ	P 信頼	N 不安		
速水 純	P 慕情	N 隔意		
久遠寺 星蘭	P 尊敬	N 不安		
日本	P 好奇心	N 隔意		

最大財産P: 4 残り財産P:

「――君の陽だまりを愛してる Mon angel」

◆生い立ち
フランス生まれフランス育ち。酒に溺れて暴力的な父と、それが我が子に手を出さぬよう、代わりに父の言いなりになっていた母。父ナレーターがまだ幼い頃に、外で女を作ってきていたナナの。幼少期に見た光景は、いつも似顔模倣として心に残り続けていた

父は、ブルかよめた幼い頃に、外で女を作つて出していたものの、幼少期に見た元景は、浦みを伴つ原風景にして心に残り��いていた。父が出て行ってからは、母を支えるため、学校に疎く通わず、朝から晩まで働いては、少ないながらも賃金を得ていた。母からは、子どもとして当たり前の生活を奪ってしまったことを度々謝られたが、寧ろ子どもの自分であっても、母のために何かができることが嬉しい、自分の人生を悲観することはなかった。エミリーとは、ジルがまだ10代の頃、早朝の新聞配達で会った。彼女の家に配達に行くと、時折、まだ日が昇らない時間から、玄関先に座り込み、物憂げな表情を浮かべているエミリーを見かけた。彼女の表情の理由は知らない。けれど、なんとかして彼女に笑ってほしかった。ノエは彼女と会うたび、いろいろな話を彼女に語って聞かせた。手先の器用な母の作った、織物の素晴らしさ、路地裏でチキンライスにケンカを吹っ掛けられ、威勢よく挑んだところ、コテンパンにされたこと、年齢を偽って手に入れた、赤ワインの味の酷さ。学のなかったジルの話は拙く、至極退屈なものだったかもしれない。しかしエミリーは、彼の話にいつだって目を輝かせては、もっと聞かせて、と続きをせがんだ。二人が深い仲になるのも、時間の問題だった。

エミリーに料理の才能を見出され、二人は結婚してから、街角に小さなカフェを開いた。客足はそこそこで、賛沢はできないものの、慎ましく満たされた日常を送っていた。

首醒

今から20年前、エミリーが見知らぬ男に突如襲われ、還らぬ人となった。

ジルもまた、彼女と同じく大きく負傷し、二人でこのまま死ぬのを待つだけだと悟ったとき、自身の内から声が聞こえてくる。

曰く、"それ"を啜れ、と。

『日々く、"それ"を喰らえ、と。』
彼の精神は、ただ、愛するものを助けられない悲嘆と、そしてそれ以上の悔悟に満ち満ちていた。自分に力があれば。あの男のように、人ならざる人智を超えた力があれば。彼女の命の火柱が消えゆくのを待つこともなかったのに。